

クラブ支部結成に関する Q & A

Q1. 支部は何名から結成できますか？

最少 5 名の新会員または既存会員で設立可能です。これは新クラブ結成(20 名以上)に比べて、非常にハードルが低く柔軟にスタートできる仕組みです。例えば、地域のつながりや職場、趣味の仲間など、小規模な単位からでも活動を始めることができ、将来的なクラブ発展の種となります。

Q2. 支部の会費は親クラブと同じですか？

支部は、活動頻度や目的、構成メンバーの状況に応じて、独自の会費設定が可能です。たとえば、学生や若手社会人を中心とした支部では、会費を抑えることで参加のハードルを下げることもできます。ただし、会費設定については、親クラブと十分に協議・調整を行ったうえで決定する必要があります。

Q3. 親クラブとの関係性は？完全に独立した団体ですか？

支部は、親クラブに所属する「活動グループ」です。
国際協会システム上は、会員はすべて親クラブの一員として登録されますが、支部単位で独自に例会を開いたり、奉仕活動を実施したりすることができます。また、支部だけで活動することもあれば、親クラブと協力して奉仕を行うことも可能です。地域性やテーマ、年齢層などに応じて、柔軟に活動スタイルを設計できるのが特長です

Q4. 親クラブと支部で、例会や活動を一緒にすることはありますか？

はい、もちろんあります。支部は独自に活動することもできますが、親クラブと合同で例会や奉仕活動を行うこともあります。こうした連携によって、クラブ全体の一体感が生まれ、支部メンバーの定着や成長にもつながります。活動目的や地域事情に応じて、柔軟に協力・連携が可能です。

Q5. 支部のテーマや目的に制限はありますか？

特に制限はありません。地域奉仕・趣味・学生・企業・家族など、目的や興味に応じて自由なテーマで支部を設立することができます。ただし、親クラブとの協議のうえで、理念や活動内容に親和性のあるテーマを進めると、その後の連携や支援が円滑になります。支部は親クラブの一部として活動するため、お互いの理解と合意のもとで設立することが望ましいです。

Q6. 支部の運営は誰が行いますか？

支部内で「支部会長」「支部幹事」「支部会計」の三役を選出し、基本的には自律的に運営します。ただし、親クラブから「支部連絡員」が指名され、必要に応じて支部に寄り添いながらサポートします。支部単独でも活動できますが、親クラブと連携しながら運営していく体制が推奨されています。

Q7. 支部の立ち上げから結成まではどのくらい時間がかかりますか？

国際協会への支部登録は、最短で約1か月で可能です。
ただし、支部結成式までを含めた一連の準備（メンバー集め、親クラブの承認、地区への申請、式典準備など）をしっかりと行う場合、おおよそ5か月程度を見込む必要があります。

Q8. 支部での活動にはどんなサポートがありますか？

LCIF クラブシェアリング制度などの助成金を活用できます。親クラブと協力して予算・活動の両面で支援が可能です。

Q9. 支部から本クラブへ移行することはできますか？

はい。支部で経験を積んだメンバーが、将来的に親クラブや他クラブでリーダーとして活躍することもあります。

Q10. どんな人を支部に誘うと良いですか？

奉仕活動に興味はあっても、「親や兄弟が既に所属していて入りづらい…」「会費が高そうで不安…」「活動の頻度や拘束が多いのでは…」「ライオンズって格式が高そう…」こうした“参加のハードル”を感じていた方に、支部はぴったりです。

支部は、会費・活動頻度・人間関係などに柔軟に対応できる仕組みで、より身近で参加しやすい入り口です。若者、働き盛りの世代、子育て中の方など、今まで参加が難しかった方にも広く門戸を開く、新しいライオンズの形です。

Q11. 人間関係や縁故関係に気を遣うのが苦手でも大丈夫ですか？

はい、大丈夫です。支部は、同じ思いや価値観をもった新たな仲間と一緒に、気兼ねなくスタートできる場所です。親クラブとはゆるやかにつながりながらも、支部内では自分たちらしい雰囲気やペースで活動できます。「人間関係のしづらみが苦手」「縁故で気を遣うのがしんどい」という方にも、無理なく参加できる新しいかたちのライオンズです。

Q12. 支部をつくるのがクラブ拡大の助けになりますか？

はい、間違いなく有効です。

支部制度は、活動頻度や会費の設定を柔軟にできるため、これまで入会をためらっていた方にも門戸を開く柔軟な仕組みです。つまり、クラブの“受け皿”を広げることができ、「入りやすさ」と「続けやすさ」を両立できます。結果として、クラブの新しい会員層の開拓につながり、会員拡大の“具体的な手段”として活用できます。

Q13. 会員数や財政に余裕がないクラブでも支部は作れますか？

可能です。支部は親クラブと比べて会費も低く、活動も小規模から始められるため、無理なくスタートできます。支部側が会員増強に貢献すれば、親クラブにもプラスの効果が生まれます。

Q14. 支部と親クラブの連携はどうやって行うのですか？支部連絡員とは？

支部が安心して活動を続けられるように、親クラブから 1 名「支部連絡員(理事)」を任命します。この支部連絡員は、支部と親クラブをつなぐ“橋渡し役”です。具体的には、例会や奉仕活動などの情報共有、必要な連絡や調整、支部の相談相手として助言やサポートなど、支部が自立しながらも、親クラブとの信頼関係を保ち、スムーズに活動できるように伴走します。